

# CASBEE® 新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

## 1. 建物概要

建物名称	(仮称)STEPS五十嵐	
建設地	新潟県新潟市西区五十嵐二の町7760番	
用途地域	第一種中高層住居専用地域	
建物用途	集合住宅	
竣工年	2019年2月 竣工	
敷地面積	1,455.86 m <sup>2</sup>	
建築面積	801.43 m <sup>2</sup>	
延床面積	2,328.42 m <sup>2</sup>	
階数	地上3F	
構造	RC造	
評価の段階 評価の実施日	実施設計段階評価 2018年6月1日	

## 2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{52.7}{47.9} = 1.1$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

## 3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	2.5		バリアフリー計画	1.0
			維持管理	3.5
			設備の更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	2.6		耐震・免震・制震・制振	3.0
			信頼性	2.2
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.0		建物外皮の熱負荷抑制	3.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.0		節水	4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	5.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	2.5		生物環境の保全と創出	2.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	3.0		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

## 4. 新潟市の重点項目の配慮事項

節水型の機器を採用し、リサイクル建材の使用を積極的に行うことで資源循環の取組みに配慮した。

# CASBEE®新潟

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)STEPS五十嵐	階数	地上3F
建設地	新潟県新潟市西区五十嵐二の町7760番	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	75人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月 竣工	評価の実施日	2018年6月1日
敷地面積	1,456㎡	作成者	石動 裕之
建築面積	801㎡	確認日	2018年6月1日
延床面積	2,328㎡	確認者	石動 裕之



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR のスコア = 3.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 建設地は新潟大学脇の斜面に位置し、北側の海に面して開放的な土地である。開放的な景観を取り込むと共に季節風・潮風・飛砂に対応するため、北側に開口部を多くとる内部廊下を配置し快適な居住環境が得られるように配慮した。		<b>その他</b> -
<b>Q1 室内環境</b> 界壁の遮音性に配慮し快適な居住区間となるよう配慮した。また建築材料は全てF☆☆☆☆とし化学汚染物質の発生を抑制した。	<b>Q2 サービス性能</b> 天井高を確保すると共に内装計画を行い機能的な空間となるよう配慮した。また屋外に設置する設備機器等はメンテナンス製に配慮した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 市道に面して植栽で緑化することで良好な街区を形成している。また庇により中間領域を形成し食堂とテラスを連繋させ豊かな空間としている。内外に防犯カメラを設置することで防犯性を高めている。
<b>LR1 エネルギー</b> 照明設備はLED照明器具を採用し照明エネルギーを削減している。また住戸の窓は複層ガラスとし省エネルギーに配慮した。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型の機器を採用し水資源保護に配慮した。また、有害物質を含まない材料を使用し環境負荷軽減にも配慮した。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO2排出率を抑制し環境に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される